

## 高句麗地名から高句麗語を抽出 方法の追試 2: 卷37をどう読むか

orig: 2004/06/14  
latest: 2004/07/05

卷37では、高句麗地名が典型的には「○○(××ともいう)」(原文:○○(一云××))とリスト風に掲げられている。この記述では○○が高句麗地名であるとは言えそうなのもの、「一云××」が高句麗側の別称なのか、新羅地名なのか、を検証してみた。

「一云××」の言語不明、または新旧地名は言語的に対応していないのかも

「国原城」:

卷35:「中原京はもと高句麗の国原城である。」

卷37:「国原城(未乙省ともいい、託長城ともいう)」

両巻を照応させて「国原城」は高句麗地名である、とひとまず推定できる。カッコ内の別名が高句麗語なのか新羅語なのか(はたまた、いずれでもないのか)判定しかねる。なお、卷37では「中原京」という新羅の呼称には触れられていない。

「一云××」は新羅地名?

「買忽郡」:

卷35:「水城郡はもと高句麗の買忽郡」

卷37:「買忽(水城ともいう)」

「買忽」が高句麗地名で、カッコ内の(水城)が新羅版である、と言えそうだ。

「一云××」は高句麗地名

「買召忽県」:

卷35:「邵城城県はもと高句麗の買召忽県」

卷37:「買召忽県(彌鄒忽ともいう)」

ここの「買召忽県」は高句麗地名だが、カッコ内は新羅地名ではなさそうだ。理由:「忽」という字が新羅プロパーと思われる地名には使われていない、新羅版では「城」に変更されている。「買召」と「彌鄒」は同音・類音と捉えうる。つまりカッコ内は新羅地名ではなく、高句麗地名の別名、別表記のようだ。

このように「一云××」の「××」には上に示したように三種類ありそうだ。即ち、言語不明、新羅地名、高句麗地名、と三通りの場合がありそうだ。しかし数量的には、最初の二種類は圧倒的に少数で、一云の地名の殆どは高句麗地名の別称、別表記と考えられる。

この検証に基づいて卷37の地名と別名(一云)の関係から高句麗語を抽出、拾い出してきた先達の作業を私も追いかけてみる。

## 卷37によく使われる字

主記述	一云	備考
「買」が「河、水」の意味で近似音は「メ」		
買忽	水城	買＝水
南河県	南買	買＝河
述河郡	省知買	買＝河
内乙買	内介米	買＝米、これは音が「メ」で近似
買召忽県	彌鄒忽	買＝弥、これも音が「メ、ミ」で近似
横川県	於斯買	買＝川。「横」＝オンが抽出できるのではないか。
深川県	伏斯買	買＝川。
買省郡	馬忽	ここからは「買」＝「馬」と考えているようだ。「メ、マ」の近似音、だろう。
水入県	買伊県	買＝水
「達」は「山」～「高い」		
釜山県	松村活達	達＝山。
功木達	熊閃山	達＝山
烏斯含達	兎山	達＝山(巻35)
北漢山郡	平壤	これは語彙としては無関係なのだろう
高木根県	達乙斬	達＝高い
「忽」は「城」( <a href="#">「村」用語、参照</a> )		
買忽	水城	忽＝城
童子忽県	仇斯波衣	忽はクアルに近い音とされているが、ここによれば、ハイに近いようだ。疑問提起。
大谷郡	多知忽	?
冬音忽	鼓塩城	忽＝城
内米忽	池城、長池	忽＝城
津臨城	烏阿忽	忽＝城
水谷城県	買旦忽	忽＝城、谷＝旦、水＝買
漢城郡	漢忽、息城、乃忽	忽＝城
鶯鶯城	租波衣	ハイが城、か。上の仇斯波衣も参照。
母城郡	也次忽	忽＝城。ここから母＝也次、を抽出している#56。
浅城郡	比列忽	忽＝城
迺城郡	加阿忽	忽＝城
十谷県	徳頓忽	忽＝県か？(谷＝頓 トン)。徳＝十＝トフ
五谷県	于次吞忽	忽＝県か？(谷＝吞 ドン)。于次＝五＝イツ
「波衣」(ハイ)のデータ		
齐次巴衣県		巻35に「23 孔巖縣 本高句麗 濟次巴衣縣」とある。「巴衣＝巖」
童子忽県	仇斯波衣	波衣＝忽
平治郡	仇斯波衣	波衣＝忽

